

中期経営計画の振り返りと長期戦略の骨子

前中期経営計画では、商工中金経営改革プログラムで培ったビジネスモデルを強化し、より踏み込んだお客さま支援に取り組みました。具体的には、課題解決に向けて取り組むお客さまに対して様々な経営リソースを提供することで、変化につよい企業経営の実現をサポートし、結果として当初目標を概ね達成することができました。

前々中期経営計画 2019～2021年度

基本方針

商工中金経営改革プログラムに基づきお客さまの真のニーズや課題に応じたソリューションを効果的に提供する「経営支援総合金融サービス事業」を展開。必要なコンプライアンス・ガバナンス改革、ビジネスモデルの再構築、経営の合理化を行う改革を実施。

主要戦略

重点分野の取組み

- ・財務構造改善支援
- ・事業再生・経営改善支援
- ・リスクの高い事業の支援
- ・創業等の支援

コンプライアンス・ガバナンス改革

業務改革・経営合理化

主要経営指標

2021年度当初目標	2021年度実績
業務純益 460億円程度	業務純益 528億円
純利益 175億円程度	純利益 183億円
OHR 60%程度	OHR 55%

振り返り

お客さま支援として重点的に取り組む分野を定義し、ニーズや課題に応じたソリューション提供に注力したことに加え、経営の合理化も着実に進捗。また、当初予定しなかった新型コロナウイルス感染症にかかる危機対応業務にもしっかりと取り組んだ結果、目標とする経営指標を達成しました。

前中期経営計画 2022～2024年度

基本方針

お客さまに対し、変化につよい企業経営を実現するための総合的なサービスを提供することで、商工中金自身の企業価値を向上させることを目指す。

主要戦略

サービスのシフト

- ・情報サービス
- ・人財サービス
- ・高度金融サービス

差別化分野の確立

- ・スタートアップ支援
- ・サステナブル経営支援
- ・事業再生支援

企業変革

- ・Well-being・DE&I
- ・お客さま本位の業務運営
- ・デジタルトランスフォーメーション

主要経営指標

2024年度目標	2024年度実績
業務純益 500億円程度	業務純益 568億円
純利益 250億円程度	純利益 256億円
OHR 60%程度	OHR 58.4%

振り返り

主要戦略として掲げた「サービスのシフト」「差別化分野の確立」「商工中金自身の企業変革」に着実に取り組んだことに加え、計画期間中の環境変化を踏まえた本部組織再編や営業店運営の高度化等の取組みを進展させた結果、目標とする経営指標は概ね達成しました。

商工中金の民営化

長期戦略の骨子 2025年度～

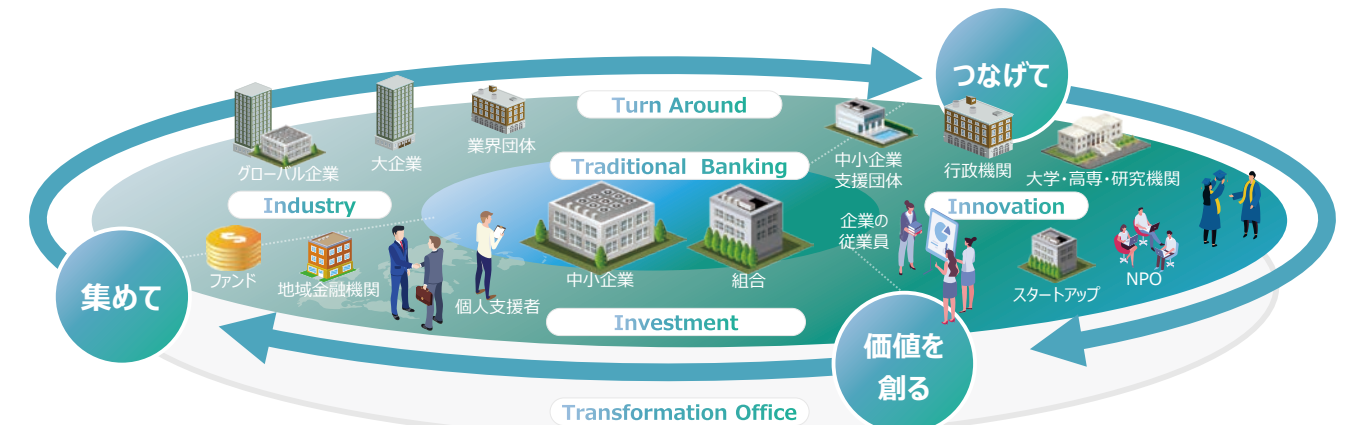
基本方針

中小企業と地域社会にかかる多様なステークホルダーを「集めて、つなげて、価値を創る」中小企業経済圏*の持続的な拡大・成長・活性化に貢献する

※中小企業経済圏とは、中小企業に関わるあらゆるステークホルダーを集めて、つなげて、価値を創るためのエコシステム

商工中金グループのありたい姿

中小企業経済圏の拡大・活性化を通じて、圏の参加者の価値向上に貢献し続けるの実現



中小企業経済圏のイメージ

主要戦略（注力する分野）



主要経営指標

中小企業経済圏の拡大・活性化を通じた価値共創の実現度合いを測る指標として、SCV（Shokochukin Co-Creation Value）を新たに設け、今後定期的に進捗を確認していく予定です。

SCV	商工中金が ソリューション提供する 取引先の数	労働生産性	付加価値額	従業員幸福度
-----	-------------------------------	-------	-------	--------